

初めての体育の時間に「王様ジャンケン」

1、最初の体育で「王様ジャンケン」をする

わたしは、今から19年前に高石小学校に赴任したが、その何年目か6年生のクラスを担当したときから、「王様ジャンケン」という集団鬼ごっこを始めている。

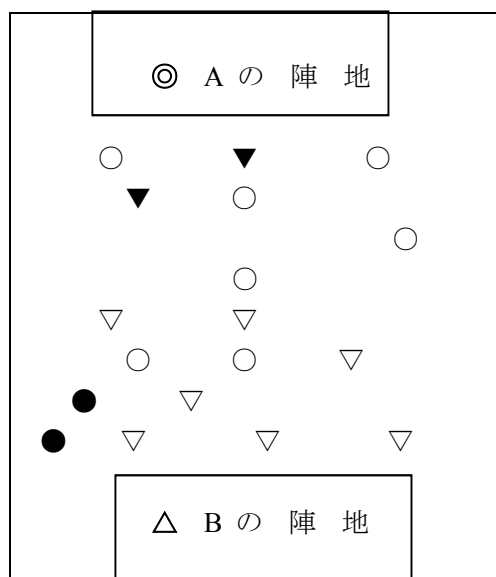
大阪支部では、黒井（？）さんが「チャンバラ鬼ごっこ」を紹介されている頃で、児童に「チャンバラ鬼ごっこ」を紹介したり「戦略戦術」の話をしていた。

子どもたちと一緒に「鬼ごっこ」をしていて、ゲームのルールを変更している過程で「王様ジャンケン」が生まれたのか、子どもの誰かがどこからか仕入れてきたのか、今となっては、定かではない(作ったような記憶あり)。

< 図 1 >

2、ルールを説明しよう

- ①○チーム(赤)対▽チーム(白)に分かれる。
- ②◎は○チームの王様で、△は▽チームの王様。
- ③相手チームの人の体にタッチするか、相手チームの人にタッチされると、その場で、ジャンケンをする。ジャンケンに負けたら、アウトでその場に座る(動けない)。勝ったら、そのまま自由に動ける。
- ④味方の王様に「タッチ」してもらえると、また自由に動くことができる。
- ⑤王様も相手にタッチされるとジャンケンをする。王様がジャンケンに負



⑥チームの陣地内は安全地帯。しかし、チームの動ける人全員が安全地帯に逃げ込んだら負け。（図1で黒色は、ジャンケンに負けて動けない人）

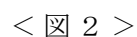
①ジャンケンをすれば、勝つ確率は0.5。2回に一回は負ける。味方が「動ける人」が多くて優勢でも、王様が負ければ、負け！。王様はジャンケンをしていない方がよい。

③「①と②」の矛盾をどう克服するか！が、そのチームの戦術。

児童のボール操作能力には、必ず能力差はある。苦手な児童は球技をしたがらないのは、ボール操作の差が原因である。事実、上手な子は何度もボールに触れるし、未熟な子はあまり触れないから、ただ、ゲームをさせているだけだと、能力差は広がるばかり！

教師から、『「未熟な子が巧くなり、上手な子も退屈しない教材を開発したり、指導法を学んで」みんなが「うまく」なる』ように日々努力していることを子どもたちに伝えることが大切。

(於體育館)



< 図 2 >